

W014 西遠での金環日食(静岡県GEO DATA(7) : 地学散歩(86))

著者	今村 守孝
雑誌名	静岡地学
巻	106
ページ	ii-iii
発行年	2012-11-23
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00024697

W014 西遠での金環日食



日食とは、太陽-月-地球がほぼ一直線上に並んだとき、地球から見て月が太陽の前を通り、その一部または全部を隠してしまう現象である。いくつか種類があるが、太陽と、見かけがそれより少し小さい月がぴったりと重なって、太陽がリング状に見えるものを「金環日食」という。2012年5月21日の金環日食は、日本国内で見られるものとしては1987年の沖縄以来25年ぶり、本州で見られるのは1883年に東北を横断したもの以来129年ぶりとなるものであった。当日朝は曇りから始まり、天気が心配されたが徐々に良くなり、金環食が始まる頃は問題なく観望・写真撮影ができた。撮影には、西遠女子学園の屋上に設置してあるタカハシ TOA130 と個人所有の FSQ106 を使った。(今村守孝)



前頁：食の最大付近（2012年5月21日7時31分23秒）
本頁：ペイリービーズ（2012年5月21日7時33分57秒）

撮影：今村守孝
撮影場所：浜松市中区 西遠女子学園
光学系：TOA130（f1000 mm F7.7）
カメラ：Cannon Kiss DX2 改造機 ISO 200
撮影システム：赤道儀 高橋 NJP
露出：1/100 秒 AstroSolar フィルター使用